

ごあいさつ



代表取締役社長 兼 COO 榎原 紘

地球環境と共に

「環境の世紀」といわれる今、後世に受け継ぐべき地球環境と社会の在り方をおつてなく真摯に向き合い考えることが求められています。私たち三井金属も、そのような時代に生きる企業として、環境との共存を図るうえで私たちに相応しい方法や取り組みを模索し一つ一つ実行に移しているところです。

私たち三井金属は、100年以上にも及ぶ非鉄金属の鉱山・製錬事業の実績を有し、金属基礎素材の面から我国産業の一端を支えてきました。長く培われた高度な金属素材への技術は、現在、TAB・銅箔などの電子材料や自動車部品をはじめとした部品加工、そして環境事業などへと発展し、多面的な業容を持つ企業の姿を見せるに至っております。中でも、廃棄物などから非鉄金属を回収しリサイクルを行う事業を中心とする環境事業では、環境と事業活動の両立を独自の技術と可能性を活かし体現している活動として、私たちなりの共存スタイルを示す代表的な一例であるといえます。

廃電子機器、廃バッテリー、溶融飛灰などをはじめとする人々の生活から発生する廃棄物の中には、多量にまたは微量に銅・亜鉛・金・銀といった有用金属を含むものがあります。それらを私たちのリサイクル技術により、そのまま自然環境に廃棄することなく、再び利用可能な製品にすることで限りある金属資源の有効活用を図り、環境負荷の低減を実現しています。

環境と向き合う姿勢

ただし、私たちの取り組みも未だ道半ばといえます。電力、コークスなどを多く使用し、当社グループが排出する二酸化炭素量の70%を占める製錬事業においては、今後も更なる低減努力の余地が残されていると認識しています。このような省エネルギー対策や廃棄物削減に絶えず取り組むには、様々な要因に対し粘り強く対応し成果を重ねていかねばなりません。そのためにも私たちは、強い意志と使命感で環境と向き合う姿勢を決して崩してはならないと考えています。

「創造と前進を旨とし、価値ある商品によって社会に貢献し、社業の永続的発展・成長を期す」。社会のためになる製品やサービスこそ価値ある商品であり、それこそが社業永続の糧であるとする私たちが掲げる経営理念は、環境との共存を図り持続可能な社会への貢献を目指しながら運営される事業のあり方にも通じるものといえます。この理念のもと、私をはじめ当社グループ社員一人ひとりが、こうした社会的使命を心に刻みながら職務を遂行することに努めています。更にはその精神が実際に、部門で掲げる方針や行動に充分反映されているかということへのチェックを可能にする体制を構築することも、重要な事業運営の要素であると考えています。

環境と調和を図り飛躍を期す

現在、2005年をスタートとする中期経営計画の達成に向けて邁進中の私たちは、計画期間の3年間を更なる事業強化と飛躍への助走と位置付けて事業運営に取り組んでいます。既に申しあげました電子材料・金属・環境・部品加工などの各主力分野をより強固な柱に育てるべく、研究開発の強化と商品毎のライフサイクルに基づく精度の高いポートフォリオ経営を進めています。こうした事業運営により、変化の激しい今日にあって状況を的確に判断し真に社会に有用な商品を提供してまいり所存です。その意味からも私たち三井金属は、環境との調和の在り方を常に見失うことなく社会的な責任を全うしていきたいと考えています。

このたび、私たちの2005年度環境報告書を発行いたしました。当報告書から私たちの日頃の環境への取り組みについて少しでもご理解いただければ幸甚でございます。今後とも私たちの事業に対し変わらぬご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

2005年 11月